

社会資本総合整備計画 事後評価書

(新小岩駅地区の交通結節機能向上及びバリアフリー化の推進)

東京都葛飾区

社会資本総合整備計画（市街地整備） 事後評価書

令和3年3月15日

計画の名称	1 新小岩駅地区の交通結節機能向上及びバリアフリー化の推進			
計画の期間	平成27年度 ~ 平成31年度 (5年間)	交付対象	葛飾区	
計画の目標				

新小岩駅地区は、葛飾区の南部に位置し、駅を中心に区内最大の繁華街を形成し、その周辺に住居系地域が広がっている。駅南側に駅前広場があるが、交通が集中し混雑が著しいため、駅東北側に新たな交通広場を整備している。駅周辺は、JR線（総武線）と補助第140号線（平和橋通り）によって大きく4つのエリアに分断されており、特に線路で分断された南北間の歩行者動線は、JR線と立体交差している平和橋通りのみであり、その歩道は駅改札から離れており掘割状で幅員も狭く、歩行者と自転車とが交錯するなど、歩行者にとって安全性と利便性に欠けている。駅の一日乗降客数は約14万人であり、エスカレーターや車椅子用リフトは整備されているが、エレベーターが無く、十分なバリアフリー化がされていない状況である。

区では、平成13年に都市計画マスタープランを策定し、新小岩駅周辺を「魅力的で身近な広域生活拠点」と位置付け、広場や自由通路の整備、地元商店街の活性化など総合的な都市基盤、環境整備を進め、交通機能、商業・生活サービス機能の充実及び駅周辺の一体性・回遊性の向上を図っている。補助第330号線（東北交通広場）、葛飾歩行者専用道第1号線は、平成22年度に完成し、現在、南北の駅前広場を往来できる南北自由通路を整備中であり、両広場の交通結節機能の向上とバリアフリー化を図っていく。

計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> 自由通路整備に関するバリアフリー事業を促進する。 			
----------------	--	--	--	--

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考
	当初現況値 (H27当初)	中間目標値 (H29末)	最終目標値 (H31末)	
自由通路に隣接する駅及び生活関連経路のバリアフリー化率 バリアフリー化率(%)=(自由通路に隣接する駅及び生活関連経路のBF特定事業のうち完了した事業数)/(自由通路に隣接する駅及び生活関連経路のBF特定事業総数)	25%	63%	100%	BF特定事業は、“葛飾区新小岩駅圏移動等円滑化特定事業計画”の中で位置付けられている。

全体事業費	合計 (A+B+C)	9,837百万円	A	9,837百万円	B	0百万円	C	0百万円	効果促進事業費の割合 C/(A+B+C)	0.0%
-------	---------------	----------	---	----------	---	------	---	------	-------------------------	------

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
評価の内容について、関係機関等に意見聴取したうえで事業主管課において事後評価を実施。	令和3年3月15日
	公表の方法
	葛飾区ホームページ上に掲載

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業															
A1 基幹事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H27	H28	H29	H30	H31		
1-A-1	交通	一般	葛飾区	直接	葛飾区	新小岩駅地区都市交通システム整備事業	自由通路、延長L=90m、幅員W=10m	葛飾区						9,837	事業中
小計(道路事業)												9,837			
合計												9,837			

B 関連社会資本整備事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H22	H23	H24	H25	H26		
合計												0			

C 効果促進事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
										H22	H23	H24	H25	H26		
合計																

番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考
国費外	南口駅前広場再整備(実施予定期間R1~R2)を、基幹事業(1-A-1)と一体的に実施することにより、駅を中心とした連続したバリアフリー空間が形成される。											
国費外	北口広場整備(実施予定期間R1~R2)を、基幹事業(1-A-1)と一体的に実施することにより、駅を中心とした連続したバリアフリー空間が形成される。											

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況					
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		【基幹事業(1-A-1) 新小岩駅地区都市交通システム整備事業】 事業中につき、事業効果は発現していない。			
II 定量的指標の達成状況	自由通路に隣接する駅及び生活関連経路のバリアフリー化率	最終目標値	100%	目標値と実績値に差が出た要因	基幹事業予定地について、自由通路南側の土地所有者であるJR東日本が駅ビル事業を行うことになり、事業用地の権利取得及び施設整備ができない状況になったため、基幹事業が未完了となった。
		最終実績値	63%		
	最終目標値		目標値と実績値に差が出た要因		
	最終実績値				
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)					
3. 特記事項 (今後の方針等)					
<p>【今後の方針】</p> <p>基幹事業(1-A-1)新小岩駅地区都市交通システム整備事業を完了させるため、駅ビル事業者及び土地所有者であるJR東日本と協議を行い、事業の確実な推進を図るとともに早期事業完了を目指していく。加えて、基幹事業(1-A-1)新小岩駅地区都市交通システム整備事業については、第3期の整備計画(計画期間：令和2年度から令和6年度まで)を策定して事業を継続する。</p> <p>また、基幹事業に併せて実施するバリアフリー化事業についても確実な推進を図り、新小岩駅地区の課題である南北の安全で快適な歩行者動線を確保する。</p>					

計画の名称	1 新小岩駅地区の交通結節機能向上及びバリアフリー化の推進	交付対象	葛飾区
計画の期間	平成27年度 ～ 平成31年度 (5年間)		

【施設整備状況概要図】

